

会 議 録 (1)

会 議 の 名 称	平成30年度 第1回入間市社会教育委員会議
開 催 日 時	平成30年5月23日(水) 午前10時00分開会 午前11時50分閉会
開 催 場 所	入間市役所 C棟5階 501会議室
議 長 氏 名	栗原桂一
出席委員(者)氏名	齋藤 悟、横山義武、齋木 茂、梅 陽子、小暮欽作、村野裕子、山畑雅浩、青木和子、幸森康夫
欠席委員(者)氏名	鈴木雅士、山本和人、森山治代、野田あさ子、植竹利之
説明者の職氏名	片寄社会教育課長 関谷社会教育課主幹 林田社会教育課主事 浅見公共施設マネジメント推進課長、 大石公共施設マネジメント推進課主幹
会 議 次 第 (公開・非公開の別)	(社会教育委員会議 すべて公開) I 委嘱状交付式 1 開 会 2 委嘱状の交付(教育長) 3 教育長あいさつ 4 社会教育委員自己紹介 5 事務局自己紹介 6 閉 会 II 社会教育委員会議 1 開 会 2 議長あいさつ 3 協議事項 (1) 社会教育委員の活動指針(仮称)作成に向けて (2) 公共施設マネジメント事業計画について (3) 各委員からの報告について(3月から5月まで) (4) 社会教育団体補助金について (5) その他 4 教育部社会教育担当各課からの報告 5 その他 今後の会議日程について 6 閉 会
非 公 開 理 由	
傍 聴 者 数	0人
配 布 資 料	別紙のとおり
事務局職員職氏名	西澤教育長、新見教育部長、関谷教育部次長 石川博物館副館長、佐藤図書館長、吉川中央公民館長、 片寄社会教育課長、関谷社会教育課主幹、林田社会教育課主事、 齋藤社会教育課主事補、植竹社会教育指導員

会議録(2)

議事の概要(経過)・決定事項

1 教育長より、社会教育委員委嘱状を新委員2名へ交付した。

- ・齋藤 悟 委員
- ・横山 義武 委員

2 協議事項

- (1) 社会教育委員の活動指針(仮称)作成に向けて
本日は公共施設マネジメント事業計画について行うので休題とする。
- (2) 公共施設マネジメント事業計画について
総務部公共施設マネジメント推進課による説明。
- (3) 各委員からの報告について
- (4) 社会教育団体補助金について

3 報告事項

(1) 社会教育課

- ① 平成31年の成人式について 片寄社会教育課長説明。
開催要項
開催日 平成31年1月14日(月)
社会教育委員は受付の手伝いをお願いしたい。正式な案内は後日送らせていただくのでよろしく願います。
- ② 社会教育事業の主要行事予定表について 片寄社会教育課長説明。
- ③ 配付資料 片寄社会教育課長説明。
「入間市の教育」
「教育広報いるま」
「入間市生涯学習茶の都出前講座」
「入間地区社会教育広報さわらび」

(2) 入間市博物館配付資料について 石川副館長説明。

- 平成30年度セミナー ALIT お茶大学講座
- 西洋館の一般公開について
- 指定管理者制度導入

(3) 図書館配付資料について 佐藤図書館長説明。

- 図書館だより4月号
- 利用制限について

(4) 中央公民館配付資料について 吉川中央公民館長説明。

- 入間市美術展
- 入間市写真美術展
- 入間書人展
- 入間市民合唱団定期演奏会
- 音楽家協会サマーコンサート

議事の概要（経過）・決定事項

- (5) 教育委員会より 新見教育部長説明。
新学習指導要領実施に向けたモデル事業について
2学期の授業日を8月25日から12月24日とするモデル事業について
本年度東金子中学校区と東町中学校区で実施。

4 その他

次回の会議日程について

第2回 平成30年9月27日（木） 午後3時より 市役所B棟5階 第4委員会室

会 議 録 (3)

発言者	発 言 内 容
<p>栗原議長 林田主事 栗原議長</p>	<p>(1) 社会教育委員の活動指針(仮称)作成に向けて それでは開会する。協議事項(1)について事務局願います。 前回まで進めてきた社会教育委員の活動指針(仮称)についてだが、本日は、公共施設マネジメント事業計画に時間を要するので、休題とする。次回以降の議題とする。 活動指針(仮称)については2回目以降実施するので承知した。</p>
<p>栗原議長 浅見課長</p>	<p>(2) 公共施設マネジメント事業計画について 公共施設マネジメント事業計画について、公共施設マネジメント推進課より説明をお願いします。 資料に基づいて説明する。公共施設の現状・概要とともに、市役所・中央公民館の耐震化についても説明する。これは広い意味でまちづくりということになる。意見交換会や社会教育委員会議などで多くの意見をいただきたい。まだ素案なので、よろしく願います。これからの公共施設のあり方、まちづくりに活かす方法をお願いしたい。なお、意見交換会では、1回目に公共施設マネジメント事業計画、2回目に耐震化の話をする。本日は大石主幹が説明する。</p>
<p>大石主幹</p>	<p>①公共施設マネジメントとは、全ての公共施設が寿命を迎えようとしているのをできる限り工夫して、長く使うことを検討しなければならないということである。なぜ、公共施設マネジメントに取り組むのかというと、少子化・高齢化に伴い人口が減少して、現在のまま施設を維持していくと、建て替えや改修が繰り返され財政破綻となるという背景があるからである。そこで、社会情勢の変化を踏まえ、新たな視点に基づく行政運営を実現するための取組をしていかなければならない。 ②取組の方向性は、「サービスの見直しと総量縮減である」そのために地区特性に配慮して再整備・再配置等を検討したり、地区間の偏りを解消することにある。 ③公共施設マネジメント事業計画の基本的な考え方は、便利な日常生活、元気な地域づくり、地域の生活を支える、建設や維持管理の費用を抑えるの4点である。市役所、市民会館をはじめ多くの施設が築40年以上たち、耐震化が必要で老朽化が進んでいる。また地区センターを地域の拠点施設として現在の公民館の建物を活用して設置していくことになる。さらに、小学校、学童保育室、図書館分館の廊下、洗面所等を共有することによって施設面積を減らせる。 ④計画策定のあり方は、平成58(2046)年までの30年間の計画であり、10年ごとに社会情勢や市民ニーズの変化、実績等を踏まえて見直しをしていくものである。本年10月から11月を目途に事業計画原案を作成し、市民説明会を経て、来年3月には事業計画を確定するものである。各地区の施設については統廃合や複合化の複数の案を示し、意見を伺いたい。</p>
<p>栗原議長 小暮委員</p>	<p>以上のとおり説明する。 今の説明について、何か質問、意見があるか。 平成31(2019)年3月事業計画策定とあるが、事業計画原案作成から4カ月と短いが大丈夫か。</p>
<p>大石主幹</p>	<p>当初の事業計画原案より1年延長させたものであるが、本年12月以降はある程度まとめた案を市民に示す形となる。</p>

発言者	発言内容
青木委員	私は、今年になって公共施設マネジメントについて知った。今後は説明会に参加していきたい。東町地区で行われた地区説明会では住民1名しか参加しなかった。私も声を掛けていくが、多くの市民が参加できるようにして欲しいが、その策を問う。
浅見課長	開催等の周知徹底を図りたい。互いに声を掛けあって参加者を増やしたいと考える。
齋木委員	小学校の統廃合について尋ねる。統合するものと新設するものとのようにしていくのか。
大石主幹	統廃合については、案を作っているが、2つの学校の真ん中に作るなど検討中である。小中一貫校についての意見もあり、簡単に進められるものでなく、学区、通学距離の問題もある。
齋木委員	スクールバスの運行について質す。
大石主幹	現在検討しているが、スクールバスなのか、公共交通機関なのか地域の状況による。また、土地の売却に関しては、借地については借主に返却する。2つの施設を統合した場合、一方に施設を作り、空いている方を売却することもある。
栗原議長	時間をかけじっくり話し合えて行けたらと考える。金子地区でも出席者が多くなく、多くの人が参加した中で問題が解決していければと思う。社会教育委員の方々も参加していただけたらと思う。
梅 委員	説明会に参加した人から「決まってしまうから無理」という声もあるが、色々な人から意見を求めていくことが大切である。期限が決められているので、こうしようという意見が言いづらいことがある。そこから意見を言っても無理があるなど少し性急すぎるのではないか。人が集まらないし、話し合いもできないので、集まりやすいところで話をしていく必要がある。今後のことを考えて色々な人に考えを聞く必要がある。多くの人が納得できるようにすればと思う。
村野委員	子育て支援センターに勤務しているが、このような会議があるのを子育て中の母親は全く知らないので、私はポスターを貼って紹介している。また、子どもが通学する学校が変わるかもしれないということで理解してもらった。
大石主幹	保育園にも開催を掲示しているが、その下の世代を持つ保護者にも伝わるようにしたい。
村野委員	保護者からは「どうなるの」とか「どう決まったのか」という話が出るが、これから話し合っていき決めていくことを理解してもらいたい。
幸森委員	4頁のハコモノの施設の具体例が示されているが、22～24頁の施設には市民会館、博物館等の施設が挙げられているが、その整合性はどうなっているのか。
大石主幹	公共施設のハコモノの内訳として具体的な例として挙げているが全てを挙げているわけではない。「主な」を付け加えてもらいたい。
幸森委員	8頁の生産年齢人口の2018年以降の変化については示されていないが、財政などについても考えていかなくていけないので、必要ではないか。
大石主幹	生産年齢人口についてはグラフでは示していないが、推定人口から把握するようにし、市税収入を考慮しながら計画を進めている。
幸森委員	地区センターは市民にとって便利なものになると考える。小学校複合化の例で、小学校・学童保育室、図書館分館の他に、今後高齢化していくので高齢者福祉施設を検討していったらよいのではないか。

発言者	発 言 内 容
大石主幹	<p>主な例としてイメージを挙げている。複合化については、他の自治体にも様々な事例があり、地域によっては高齢者福祉施設を地区センターに作って欲しいという要望もあり、用途としては考えている。</p>
小暮委員	<p>将来を考えるとやむを得ない部分があると考えます。市役所担当者は緻密な計画を立てて市民に提示することは大切である。市民レベルで考えることも大切であるが、大所高所から将来を考えて賛成反対を述べてもらいたいところである。最終的には市長が信を問うことになる。</p>
大石主幹	<p>入間市議会では、特別委員会を作って対応している。検討状況の報告をしたり、意見をいただいたりしているところである。方向性をご理解いただきたい。</p>
栗原議長	<p>時間が少なくなってきたのでここで打ち切る。</p>
栗原議長	<p>(3) 各委員からの報告について(3月から5月まで) 協議事項(3)について各委員1分以内でお願いしたい。</p>
齋木委員	<p>福祉協議会総会に参加した。3月に体育協会主催のクロスカントリー大会を実施、5月に総会を開催した。</p>
梅 委員	<p>子ども会のカルタ大会県大会に参加し、個人3位、団体5位で市長の表敬訪問を行った。ジュニアリーダー研修会が入間消防署であり参加した。市子ども会総会、社会教育委員総会がウエスタ川越であり、それぞれ参加した。</p>
小暮委員	<p>博物館ボランティアを継続して実施している。地域の老人クラブで文化創造活動を実施しているが、お楽しみを求めてきている人が少なく、老人の意識改革をしていきたいと考えている。</p>
村野委員	<p>子育て支援に関わっており、子ども食堂ネットワークいるまの会長となり、5月に設立総会を開催した。子ども食堂ネットワークから助成金システムができつつあるようになった。フードバンク入間の役員として創立講演会があり指導してきた。5月27日入間市子育てフェスティバルを開催する。</p>
山畑委員	<p>6月10日にわんぱく相撲入間大会が武道館、黒須地区体育館を会場に開催される。来場して声援を送っていただけたらありがたい。</p>
青木委員	<p>文化遺産をいかす会では、博物館と一緒に西洋館の修理が終了したのでそれに伴う事業を進めている。黒須地区の黒須銀行等の文化遺産を地域ごとに活用できるように活動している。東町にこにこ広場を3月に立ち上げ、子ども食堂、教育支援、お年寄りも参加できるような活動を進めている。</p>
幸森委員	<p>自治会長をしている関係で、民生委員の話を受けてマンションのサロン活動を立ち上げた。発起人会議ができた状態である。小さなコミュニティの中で周りに連鎖して広がっていけばよいのではないかと考える。</p>
栗原議長	<p>金子文化協会会長として、金子芸能文化祭、市の発表会、中学校卒業式、さくらまつり、入学式 総会、社会教育協議会、人権推進協議会総会等に参加した。新居浜市との関係で市長、議長、県会議員、市議会議員と交流を深めている。10月には金子シンポジウムに参加する。</p>
齋藤委員	<p>学校が豊岡地区にあるので扇町屋公民館運営委員、扇町屋文化祭実行委員、図書館協議会の委員として協力している。狭山入間地区学校警察生徒指導連絡協議会の役員として、豊岡東地区アポックにも健全育成会の総会に参加した。ジョンソン基地の跡</p>

発言者	発言内容
横山委員	<p>土地利用協議会に参加した。</p> <p>各種運営委員として協力参加し、学校教育と社会教育が両輪としてできるように進めている。少子化、物が古くなる背景の中、入間市の教育が魅力あるものになるように子どもが減らないように全力で行っている。入間市を人口が増えていく都市、教育を大事にする入間市を進めていくことによって、子どもの数が増えていく都市として魅力ある学校づくりをしていきたい。</p>
栗原議長	<p>以上で、協議事項（3）については終了とする。</p>
栗原議長	<p>（4）社会教育団体補助金について 補助金について、事務局説明をお願いする。</p>
林田主事	<p>資料の 12, 13 頁をご覧ください。昨年度に市では機構改革があり、教育委員会所管の社会教育団体と、市長部局所管の社会教育団体に分けられた。補助金額は昨年のもものとほとんど同じである。</p>
栗原議長	<p>ただいまの説明に対し何か質問はあるか。</p>
幸森議員	<p>保存会と連盟で金額に差があるのはなぜか</p>
吉川館長	<p>根拠については、かなり以前から補助しているもので、金額の違いについても不明である。</p>
幸森委員	<p>それぞれの団体の積み重ねで、金額が違うわけではないのか。</p>
片寄課長	<p>入間市の補助金要綱に基づき行っている。会員数×単価で行っているところと一律のところがある。過去に一律5%補助金減額の時があり、端数の金額が出ているところが多い。0という積算効果ばかりでなく、人数×単価で合計で行っている。ただし単価についてはそれで正しいかどうかは今の段階ではわからない。</p>
幸森委員	<p>団体によって、金額が違くと重点の置き方が違うのかととらえられてしまうのではないか。</p>
片寄課長	<p>この金額は団体に対する補助金なので、100%の補助ではなく、運営に対する補助であるのでご理解いただきたい。</p>
栗原議長	<p>他になければ、これで協議事項を終了し、議長の職を解かせていただく。ご協力に感謝する。</p>
<p>議事のでん末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。</p> <p>平成 年 月 日</p> <p>議長の署名</p>	